

# 平成 29 年度 名遺跡の調査成果

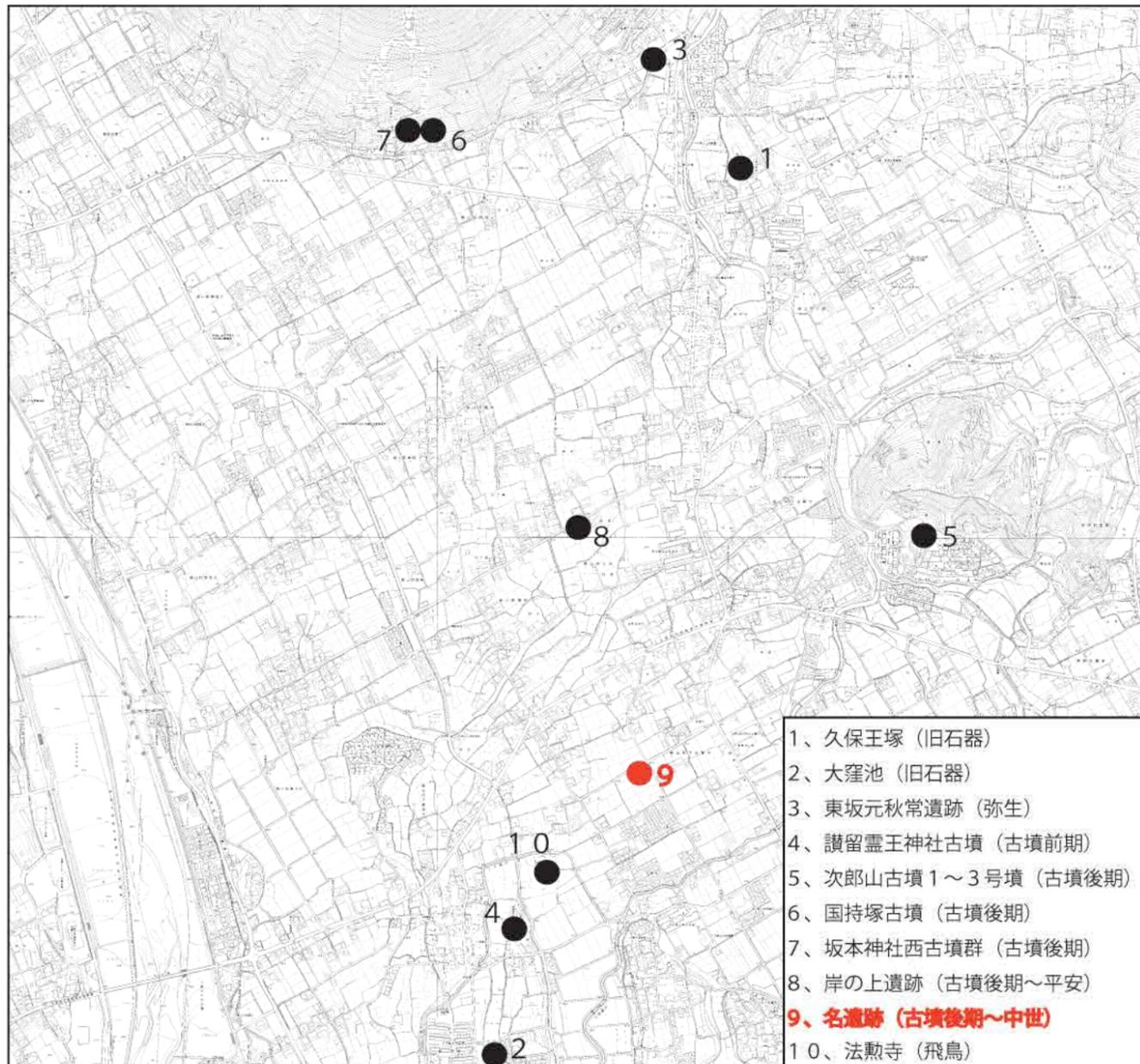
平成 30 年 1 月 27 日 (土) 香川県埋蔵文化財センター  
地元説明会資料

## 1 調査の概要

- ・遺跡名：名（みょう）遺跡
- ・所在地：香川県丸亀市飯山町下法軍寺
- ・調査期間：平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月
- ・調査原因：国道 438 号（飯山工区）道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

## 2 遺跡の概要

名遺跡は丸亀市飯山町下法軍寺に所在します。遺跡は大東川に隣接した微高地上に立地しており、周囲には田園風景が広がります。また周囲の田園の区画には古代の土地区画制度である「条里制」による条里型地割が比較的良好に残存しています。



名遺跡と周辺の遺跡（丸亀市都市計画図（1/2,500）を 10% に縮小して加工）

## 3 調査の成果

### <見つかった遺構・遺物>

今回の調査では古墳時代後期、奈良時代～室町時代にかけての大きく分けて 2 つの時代の遺構・遺物が見つかりました。古墳時代後期のものでは竪穴建物と須恵器や土師器などの土器類があり、奈良時代～室町時代にかけてのものでは掘立柱建物と須恵器や土師質土器などの土器類、瓦がみつかりました。



竪穴建物から出土した古墳時代後期の須恵器



遺構平面図

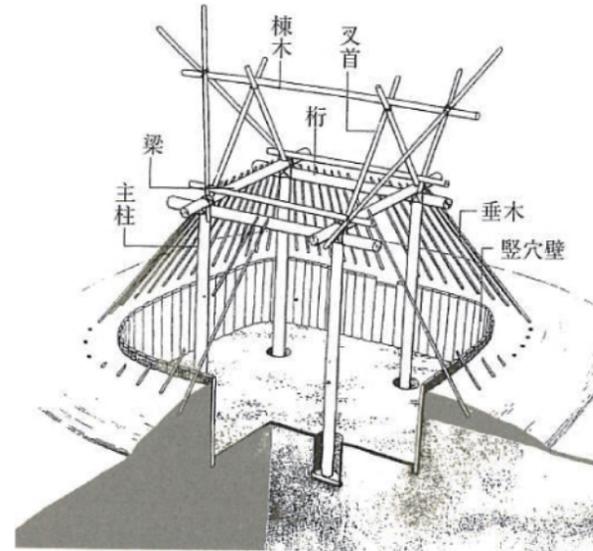
## <古墳時代後期>

### ・ 竪穴建物

2棟を確認しました(竪穴1、2)。竪穴建物1は1辺が6m程度の建物です。軸を南北の方向にとり、建物内の北側には竈が備えられています。竪穴建物に竈が備え付けられる例は、香川県内では古墳時代中期頃から確認でき、古墳時代終末期頃まで続きます。また、この遺跡のものと同じく、建物内の北側に備え付ける例が圧倒的に多いです。遺物は土師器の小片と須恵器の蓋が出土しており、須恵器の年代から6世紀の後半頃の建物と考えられます。一方竪穴建物2は一辺が4m弱の建物です。軸はやや西偏し、竈はありません。出土した遺物からは細かな時期は分かりませんが、概ね6世紀代の建物であると考えられます。



竪穴建物 2(右側が北)



竪穴建物の復元図

他2棟は柱穴からの出土遺物から平安時代の建物と考えられます。また、古代の平瓦が数点出土しています。当時は屋根に瓦を葺いた建物は一般的なものではなく、普通の集落遺跡ではほとんどみつきりません。

復元することのできた建物は3棟だけですが、柱穴自体は多数見つかり、室町時代までの遺物も多く出土していることから今後の調査で建物の数が増える可能性があります。



瓦の出土状況



黒色土器の出土状況

## 4 まとめ

平成28年度の岸の上遺跡の発掘調査と同様に今回の名遺跡の調査では、古墳時代後期の竪穴建物を複数確認しました。この時期に古墳が多く作られることは古くより知られていましたが、それと同じ時期に人々が平野で集落を作り生活していたことを確認できたのは大きな成果と言えます。

また、古代にはこの地に官道のひとつ「南海道」が通っていたことが分かっており、岸の上遺跡では南海道の道路側溝と、道に隣接する大規模な掘立柱建物群が見つかりました。これらと近い時期には名遺跡の南西500mの場所に古代寺院法敷寺が造られます。今回の調査では、古代の遺物や遺構も確認しており、この時期の飯山町について知るための重要な資料を得ることができました。

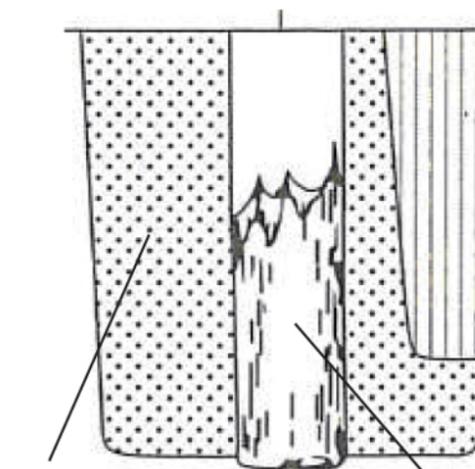
## <奈良時代～室町時代>

### ・ 掘立柱建物

3棟を確認しました。建物1は桁行3間×梁行2間の建物です。柱の掘方の直径は大きいもので70cm、深さは60cmで他の建物と比べて規模が大きいのが特徴です。柱穴からの出土遺物から奈良時代の建物と考えられます。



柱穴の断面



柱穴の模式図

時代	飯山町
旧石器	3,000年前 ・久保王塚、大窪池、蓮池などで旧石器が採集される
縄文時代	15,000年前 ・縄文土器数点が採集されているが、集落等は発見されていない
弥生	2,300年前 ・東坂元北岡遺跡、東坂元秋常遺跡で集落が営まれる
古墳前期	1,800年前 ・讃留雲王神社古墳が造られるがこの時期に該当する集落は見つかっていない
古墳中期	1,600年前 ・山田山古墳が造られる
古墳後期	1,500年前 ・国持塚古墳、坂元神社西古墳、次郎山古墳など多くの古墳が丘陵斜面に造られる ・岸の上遺跡、名遺跡で集落が営まれる
飛鳥時代	1,400年前 ・法敷寺が建立される ・南海道が現在の飯山町を東西に横切るよう敷設される
奈良	1,300年前 ・岸の上遺跡で大規模な掘立柱建物群が造られる ・名遺跡で集落が営まれる
平安～室町	1,200～500年前 ・名遺跡で集落が営まれる